

開催地名	島根県雲南市
開催日時	令和5年11月26日(日) 13:30～15:00
開催場所	鍋山交流センター
語り部	竹原 茂 (広島県三原市)
参加者	市防災安全課及び防災担当職員、自主防災組織、地域住民 46名
開催経緯	当市は、令和3年7月豪雨災害による被災を経験し、被災後住民の防災に対する意識も少しずつ高まっているように感じる。しかしながら、避難所の開設・運営については、短期(数日間)の運営経験はあるものの長期にわたる運営の知見がなく、また、行政主体の運営から避難者への自主運営へと移行していくことへの認識が欠如していることが課題となっている。今回語り部による被災体験等を聴講することで、住民の更なる防災意識の向上と知見習得を図りたい。
内容	<p style="text-align: center;">命と暮らしを守るために ～あなたにとって防災とは～</p> <p>(1) 平成30年7月豪雨災害の三原市 広島県三原市は今昔マップやハザードマップを見るとわかる通り、干拓や埋め立ての歴史があり、浸水区域、液状化現象区域である。平成30年7月の豪雨災害時には沼田川が氾濫、破堤した。国道2号線は通行止めとなり、尾道寄りの木原地区は土石流で建物がえぐられた。こうした状況下、県内各地では避難指示(緊急)が出るまでに21名が亡くなった。避難訓練に参加したことがない、自宅が土砂災害や浸水区域にあると知らない住民も多い。友人が避難の連絡をしても避難しなかったり、川の様子を見続ける住民、お風呂に入ってから避難すると言って土石流で亡くなった夫婦もいた。</p> <p>ハザードマップを見たことがある住民もいるが、ただただ見ただけでは意味がなく、理解して対策を立てることが重要である。そして避難指示が出ても、行動に移すまでには時間がかかる。警戒レベル4は、実際に暴風や浸水が発生している段階なので、避難するには遅い。レベル4に達する前に避難を完了しておくため、少しでも早い行動が必要である。日頃から地域と行政で連携し、地域関係構築や避難訓練等の事前準備をしたうえで、住民は自主的に避難し、家族や知人に呼びかけることが大切である。</p> <p>(2) 避難所状況と運営について 現場を経験している外部ボランティアからの助言は有効的である。食事スペースと居住スペースを分けたり、ホワイトボードによる情報共有などの工夫がなされた。しかしながら、男性だけではなかなか運営は進まず、食事管理を含め炊き出しの流れ、パーティション設置位置や衛生面を含め、心配りが出来る女性の力が必要である。殆どの避難所は男性が中心のため、女性が運営に参加出来る体制の構築が課題である。</p> <p>一方で、若者の力は活躍だった。中学生が友達や卒業生に声をかけ、ボランティアの輪が広がった。こちらが指示を出さなくても、学生が主体的に考え動いてくれる。防災学習を行っていた成果と感ずることが出来た。</p> <p>その他、避難所における食物アレルギー対応も見落とされがちだが重要である。また運営にあたっては、一部の人にだけ負担がかからないよう対策を練ってほしい。</p> <p>(3) 三原市防災ネットワークの活動 三原市防災ネットワークは自主防災会を始めとし13団体で構成されており、中にはラジオ局、テレビ局も含まれる。例えば、ケーブルテレビでは河川のライブカメラ</p>

などで状況発信を行ったり、三原災害情報ネットワークとして市内各地の被災状況をLINEでも共有できるよう構築している。

また地域と学校・少年消防クラブ等との合同防災訓練も行っている。防災マップ作りには沢山の方が参加してくれた。その防災マップをごみステーションや主要施設に設置することで、ゴミを捨てに来る人が目にし、身近なものにすると共に、子どもたちの避難所に関する理解が促進された。また保護者からの要請で子どもたちが参加できる防災訓練として救助要請、「SOS」人文字づくりなども行った。様々なワークショップに参加してもらうことで、自分たちで考え、動ける防災意識作りに役立っている。そして、より多くの住民に防災を身近に感じてもらえる様に地域の大きなお祭り（消防まつり3,000人）と組みあわせ、防災体験会も実施した。自主防災会や防災士の協力も仰ぎ、行政の力を借りずとも自主防災の大切さを伝える活動を行っている。

(4) 最後に

防災のシステム構築において念頭に置いて欲しいのは、他所の優良なシステムを目指すのではなく、自分達の地域に根差したシステム作りである。他所の優れた事案を参考にしても、自分達の地域とかけ離れた内容になりやすい。地域に沿った個別避難計画のスタイルを作り上げることが重要だ。加えて、実効性のある防災訓練を行い、すぐに避難行動が出来る地域作りを目指してほしい。

マザーテレサの言葉で、「平和の反対とは無関心である」とあるが、これは防災についても同じではないだろうか。加えて、熊本市桜木小学校・松木隆嗣先生の熊本地震からの教訓もお伝えしたい。「災害時に何かできるかは震災前に何をしていたかで決まり、発災後に何をしなければならぬかは震災後に何をしたかで決まる。」平素から災害について地域・行政と連携をし、関心を持ち、防災力を高め、誰一人取り残さない地域を作り上げて頂きたい。



開催地より

平成30年7月豪雨災害（西日本豪雨災害）の被災体験と災害教訓について、各避難所の状況等具体的なお話を織り交ぜながら分かりやすくご説明いただいた。

今後の「自助」、「共助」を基本とする防災対策、災害対応に役立てていきたい。そして、自主防災組織の活動として、住民に対しての防災意識の強化と、防災訓練の継続的实施に努めていきたい。